

令和 7 年度

運営に関する計画

中間評価



令和 7 年 1 2 月

大阪市立三津屋小学校

(様式2)

大阪市立三津屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 ○学校アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。 ○学校アンケートで「なかよし班活動で協力して(力を合わせて)楽しむことができた。」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○学校アンケートで「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を88%以上にする。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 全学級で学期に1回いじめアンケートを実施し、現状を把握し、早期対応ができるようにする。また、スクールライフノートの心の天気や相談機能でいつでも個別に対応ができるようにする。 | B |
| 指標 ・学期に1回いじめアンケートを行う。 ・日頃の児童の様子を観察するとともに、スクールライフノート学校生活ウォッチャーで毎日1回以上確認する。 | |
| 取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 学級や学年だけでなく、教職員全員で学校全体の活動を通して、きまりを守る大切さを考えられるようにする。また、各学級の個別の課題に、学年、生徒指導部会、学校全体等の組織で対応するとともに、隔週の終礼、毎月のいじめ虐待対策委員会で、情報共有を図る。 | B |
| 指標 ・三津屋の安心ルールや服装のきまりを配付し、家庭と連携する。 ・毎日の看護当番、毎週の全校朝会、毎月の生活目標を通して、きまりを守る大切さについて考えられるようにする。 ・月1回の生徒指導部会や毎週の終礼、毎月のいじめ虐待対策委員会で、課題の情報共有を行う。必要に応じて、関係諸機関と連携を図る。 | |

| | |
|--|---|
| <p>取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級だけでなく教育活動全体を通じて、認め合い、支え合う集団作りを実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・校内調査で「友達の良いところを見つけている」という旨の回答の割合を 88%以上にする。</p> | C |
| <p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>他者を敬う心を育成するため、児童が主体的に取り組む縦割り班活動を実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学期に 1 回以上、児童が主体的に計画・運営する縦割り班活動を実施する。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【取組 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートは計画的に実施することができた。早期発見につながり、該当児童の対応も迅速に対応ができた。また、毎日児童の様子を見取り、声掛けをしたり、いじめについての話をしたりして児童が相談しやすい環境づくりをしている。相談機能も活用するように促している。 ・心の天気の入力では、曇りや雷の児童への声掛けをしている。 <p>【取組 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で、学校ルールについて、朝会で看護当番の話や、各部会を通じて声掛けや共有をしているが、教員でルールの共通理解が曖昧なところがある。また、指導が入りにくい児童が一定数いる。その児童に対する手立てを考える必要がある。 ・安心ルールにおいて、家庭に配付しているが理解を得られるまで至っていない。 ・各種対応について迅速に対応するようにしている。また、決まりをなぜ守らないといけないか発達段階に応じて重点的に指導している。 <p>【取組 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基盤となる「安心できる集団作り」に努めている。 ・4 月に学年目標を示し、学習や学校行事、学年集会を通して、お互いを認め合う集団作りに努めた。朝の会、終わりの会に友達の「良い所みつけ」を行っている。友達の良いところを見つけることでお互いを認め合う集団作りを大切に取組を進めている。 <p>【取組 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員か中心となり、計画通り活動ができた。活動の中で上級生が下級生に対して手助けする場面を見ることが増えてきている。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【取組 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日タブレット入力（相談や心の天気）があるか確認する。担任だけでなく、学年、学校全体で指導、見守りをしていく必要がある。 <p>【取組 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、安心ルールの共通な認識を持つ機会を設け、ルールの認識、指導の共通認識に基づく一貫した指導を行っていくことが必要である。そのことを踏まえ引き続き、発達段階に合わせてルールを守ることの大切さを指導していく。 ・自動理解については、誰が見てもわかるように関係教員が正確に記録を残していく。 <p>【取組 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などでお互いに認め合えるように価値づけを引き続き計画し実行してく。 <p>【取組 4】・継続して取組を実施してく。</p> | |

大阪市立三津屋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | | |
|------|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 | A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| | C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 42% 以上にする。 ○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65% 以上にする。 ○年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 日々の学習指導を中心に、児童が話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていることを感じられるような授業づくりを進めていく。 | B |
| 指標 ・年 3 回の学校評価児童アンケートにおいて、「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の項目で、最も肯定的な意見を 55% にする。 | |
| 取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 授業づくりの基礎・基本を重点に置いた授業力向上の取り組みを進めることで、授業力の底上げを図り、学力向上につなげる。 | B |
| 指標 ・授業づくりの基礎・基本を重点に置いた授業研究を、全員が年間 1 回以上行い、相互に指導・助言し合う。 | |
| 取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 「三津屋タイム」（朝の学習の時間）、「家庭学習の手引き」（保護者向け資料）を活用し、基礎的・基本的内容の定着と学力の底上げを図る。また、「自分の日」を実施することで学習意欲の向上を図る。 | B |
| ・すべての学級で、毎週 2 回、「三津屋タイム」に国語・算数を中心とした基礎的・基本的内容の繰り返し学習を行う。 | |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学級で、最初の懇談会の際に「家庭学習の手引き」を活用して自主学習習慣の定着について啓発をする。また、全学級で学期に1回以上、児童に対してその内容に基づく指導を行う。 ・月に1回、「自分の日」を設定し、学習意欲の向上を図る。 | |
| <p>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体力向上のための運動機会の設定や、場の設定をする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上「ぐんぐんスポーツ」として、運動委員会を中心に、全校（各学級ごと）で運動する機会をもつ。 ・教職員に向けた研修を年に6回以上行う。 | B |
| <p>取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 睡眠の重要性について、学校の指導、家庭への啓発を通して意識を高めるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康委員会を中心に、月に1回「キラキラチェック」を行う。 ・年に1回、学校保健委員会による睡眠についての啓発を行う。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【取組1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、一方的に自分の考えを伝えるだけでなく、発表に対してどう思ったかななどを引き出したり、自身の考えとも比較させたりするなど、学年に応じた工夫をしている。 <p>【取組2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元において、学年で進め方や内容を共有したり、教材研究したりすることで、授業力の底上げに取り組んでいる。授業研究においても、計画的に進め、順次行っている。 <p>【取組3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るために学年で三津屋タイムに取り組んでいる。しかし、学年によっては移動教室などがあり朝学習の時間を取りづらいところがある。 ・月に1回「自分の日」を設定したことで、新しいスキルを身に着けたり、家庭の一員として自分の役割について考えたりする時間となっている。 <p>【取組4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐんスポーツ」を計画通り実施することができた。楽しんで参加した児童が多く、体を動かす楽しさを児童が感じられる良い機会になった。また、教職員向けの研修を計画通りに進められた。研修内容を日頃の授業に活かすことができている。 <p>【取組5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キラキラチェック」に合わせて実施している睡眠に関するクイズを通して、睡眠や健康に対する意識が高くなっている。しかし、習い事や家庭の環境で「キラキラ睡眠」の活動に取り組めない児童も一定数いる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【取組1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続指導するとともに、より“最も肯定的な意見”が増加するよう働きかけを行っていく。 <p>【取組2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業については、公開日の直前で周知されることが多い。余裕をもって知らせることで数多くの教員からの助言をもらう機会を増やし授業力を高めていく。 <p>【取組3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三津屋タイム」においては、デジタル教材とプリント教材の両方を活用して基礎基本が | |

定着するように継続的に取り組んでいく。また、時間割の調整や各学級の裁量で臨機応変に繰り返し学習の時間を作ることができるようにする。

- ・「自分の日」においては、児童へ改めて「自分の日」とは、何の目的であるかを伝える機会を設け、学習意欲を高めるための取組が必要である。
- ・家庭学習においては、自主的に学習することの大切さを授業等で伝えながら、家庭とも連携し今後も取組を進めていく。

【取組４】

- ・「ぐんぐんスポーツ」に関しては、実施した時期の気温が予想以上に高く児童へ思うように運動を勧めることができなかった。
- ・今後クラス数も増え運動場で活動できる人数の課題もある。そのため、来年度に向けた取組を後期に実施できるよう検討する。

【取組５】

- ・家庭を巻き込んだ活動を行っていくとともに学校保健委員会で睡眠の啓発を実施する。

大阪市立三津屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。 ○第2期「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を63%以上にする。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (1) 基準1 次のア及びイの基準を満たすこと ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること </div> ○学校アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】 朝学習の時間やスキマ時間、家庭学習において、デジタル教材や一人一台学習者用端末を活用した学習を実施する。 | B |
| 指標 ・デジタル教材、または一人一台学習者用端末を活用した朝学習、スキマ時間学習、家庭学習を週1回以上実施する。 | |
| 取組内容②【基本的な方向6、教育DXの推進】 一人一台学習者用端末を活用した授業を実施し、ICTを用いた児童の意見の交流ができるようにする。 | B |
| 指標 ・一人一台学習者用端末を活用した授業を学期に1回以上実施する。 | |
| 取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革に関して勤務時間の最適化を図る。 | B |
| 指標 ・会議等を設定しない「ゆとりの日」を設定する。 ・水曜日に会議を設定し、16時半までに終了する。 ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。 | |
| 取組内容④【基本的な方向8、生涯学習の支援】 読書週間の「読書にチャレンジ」と読書記録カードを一体化し、自分の読書歴や読書量を振り返ることができるようにする。それにより、普段の読書に対する意識・意 | B |

| | |
|---|---|
| <p>欲を高め、習慣化を図る。また、読書量・読書傾向などを把握しやすくし、日々の読書指導に生かす。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、年間を通して、統一の読書記録カードを活用して読書指導を行い、読書目標達成率を昨年度（68%）以上にする。 | |
| <p>取組内容⑤【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>読書週間の定着を図るため、「読書タイム」を実施するとともに、学期に1回、全校での「読書週間」を設定する。また、学校司書や地域ボランティアによる読み聞かせの機会を設けるとともに、その活動と連携し、読書への関心を高める。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学級で、週1回、「読書タイム」を実施するとともに、学期に1回全校での「読書週間」、年1回「絵本展」を設定する。 ・すべての学級で、隔月に1回以上、地域ボランティアの活動と関連させた読書活動を行う。 ・すべての学級で、年1回以上、学校司書による読書指導や読み聞かせを行う。 | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>【取組1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間やスキマ時間を利用した復習だけでなく、どのデジタル教材を使うと効果的かを考えながら、授業のあらゆる場面に使用して学習している。 ・活用に差はあるものの、家庭学習においてスタサプに取り組んでいる。成果もわかりやすく、夏休みの課題として用いた際も児童の進捗状況を把握しやすく、丸付けなどの負担軽減にもつながった。 <p>【取組2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スカイメニューでイラストを描き、発表する活動をしたり、動画や写真などの情報を共有した話し合いをしたり、調べ学習におけるスライドの作成をしたりといった、学年や児童の実態に合わせた授業をすることができている。一方で、ICTを用いた意見の交流というところまで至っていないため、2学期以降にICTを用いた交流を予定している。 <p>【取組3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の整理や退勤時刻の意識の高まり、勤務時間を意識した声掛けなどにより、仕事の計画が立てやすくなり、勤務時間が長くないような工夫はできている。しかし、すべきことが増える一方であるため、意識はしているものの休憩時間やゆとりはなかなか取れていない現状である。 ・水曜日の5時間授業、学年に案件を事前配布し、会議時間が短くなるように進めているものの、16時半終了は実態に合っていないとも考えられる。 <p>【取組4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で立てた目標に向けて読書カードに進んで記録して記録が増えていくことを励みに読書する様子が見られている。また、昨年よりも本が好きになったという児童もいる。 ・おはなしわくわく以外で、学級内で絵本の読み聞かせを行うなど読書に対する意識は高まっている。 ・一定数読書記録カードに記入することを面倒に感じる児童がいる。 ・学校での取り組みは行っているが、読書時間はまだ十分ではなく習慣化が難しいという家庭も一部見られており、引き続き家庭への啓発も図っていく。 <p>【取組5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書による読書に親しみやすく集中しやすい場の設定や、地域ボランティアによる | |

様々なジャンルの本の読み聞かせの機会が設定ができている。その結果、読書習慣の定着につながったり、集中して読み聞かせに耳を傾けたりするなど、読書を楽しむ児童が多い。

- ・学級の係活動として主体的に読み聞かせをする活動も増えている。

次年度への改善点

【取組１】

- ・今後も継続して、活用していく。

【取組２】

- ・指導者側の知識や技能の向上とともに、ICTを用いた意見交流の方法の共有化を図る。

【取組３】

- ・必要な会議は削減できないため、時間をかけてでもすべきことの見極めが必要。

【取組４】

- ・様々な取組は行っているものの、読書量には児童差、学年差が大きく、対策が難しいこともあるが、今後も読書目標の達成に向けて継続して指導していく。

【取組５】

- ・引き続き、司書教諭・地域ボランティアと協力し児童の読書習慣の定着に向けて取り組む。